

2021 年度事業報告書

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

認定 NPO 法人アカツキ

事業の実施と成果に関する事項

①非営利団体・市民団体及び社会的企業等を対象とした、対話と議論を共に育むコンサルティングと、その技術を社会に広く展開するための販売事業

事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
①-1) ファンドレイジング・NPO 法人事務・内部コミュニケーションに関する伴走型コンサルティング支援	通年	福岡県 熊本県 長崎県 大分県 山口県 京都府	4 人	NPO 15 団体	5,530,229
①-2) 福岡県 NPO・ボランティアセンターの専門相談及び研修会等企画（福岡県委託）	通年	福岡県	3 人	NPO 80 団体 (延べ) 個人 93 名 自治体 23 箇所	
①-3) NPO の自己評価マニュアル制作（福岡県委託）	12～3 月	福岡県	1 人	NPO 全体 助成機関等	

①-1) コロナ禍の中でオンライン会議が一般化したことにより、県外からの依頼が増加した。コンサル前の準備や事後のフィードバックを複数人で行うことで、職員のスキル並列化を進めている。

①-2) ワーカーズコープとの共同体制にてセンターの受託がスタートし、窓口対応と施設管理業務はワーカーズが、専門的な相談対応や現場の情報やノウハウの共有をアカツキが担った。

①-3) 「ふりかえり評価」の実施マニュアルを転用すると共に、プロの広告漫画家に依頼し、評価を実施する背景や実施後のイメージをマンガで解説する 14P の冊子を製作することができた。

**②市民社会を担う人材及び団体の育成にかかるセミナー・研修・ワークショップ等の実施とともに、  
互いに支え合うコミュニティを構築する事業**

事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
②-1 ファンドレイジング・NPO 法人事務・組織運営に関するセミナーやワークショップの開催、講師登壇	通年 10回	福岡県 大分県 東京都 愛知県	2人	NPO の理事・職員、会社員、行政職員等 約 1000 人	1,380,776
②-2 「ふくおか NPO“ヌ”スタートアップトーク！」オンライン連続イベントの開催	8~10月 8回	全国	3人	NPO の理事・職員、会社員、行政職員、大学生等 約 260 人	
②-3 解決しない NPO 相談会 オンライン番組配信	1~3月 3回	全国	2人	不特定多数	
②-4 NPO 法人事務体制整備ノート改訂事業の受託 (福岡県委託)	6~3月	福岡県	2人	NPO の理事・職員・監事等	

②-1) コロナ禍の中で県内自治体からの研修依頼は減ったが、逆に県外のセンターや NPO 支援企業、大学等からの依頼が増加した。内容についても、支援倫理やキャリア観等新しいテーマがあった。

②-2) 社会課題の解決や価値の創造、ビジネス化の風潮に対抗し、ボランティアや理事、インターン等に登壇してもらい、市民活動の意義である関わり方の幅や楽しさを打ち出す企画を実施した。

②-3) 支援者ができるのは解決やアドバイスではなく、聞く・受け止めることではないか、というコンセプトから、テーマを決めて SNS でお悩みを募集し紹介する YouTube 番組配信を開始した。

②-4) 2016 年度に制作した「事務ノート」について、法改正やオンライン対応等社会の変化に合わせた改訂版の制作を行った。モニターには現場 NPO や支援者等合計 9 名の協力を得ることができた。

③市民活動とそれらを取りまく社会環境の調査・研究及びその成果物の発信・出版事業

事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
③-1) ファンドレイジングの現場実践に関する調査 (FR 協会委託)	4~6月 ヒアリング 4回 報告回 1回	福岡県 東京都	2人	不特定多数	4,165,787
③-2) ナラティブアプローチを活用した草の根 NPO 「ふりかえり評価」実践拡大	通年 会議 24回 実践 13回 イベント 4回 番組配信 10回	福岡県 佐賀県 長崎県 山口県 北海道 岐阜県 福島県	4人	NPO 全体 助成機関等	

③-1) 日本ファンドレイジング協会からの依頼を受け、NPO に限らずお寺や支援企業を含めた 4 者にヒアリングを行い、現場の知見やノウハウ、倫理的な側面からの注意事項等をレポートにまとめた。

③-2) 前年度に続き、トヨタ財団の「イニシアティブ助成」に三者共同で採択された。ふりかえり評価の実践団体数の増加と情報発信に力を入れ、そこで得られた知見を元にツールの改訂を進めている。

**④市民活動団体の経営を支援するための助成金拠出及びそれに資する財団・企業・自治体等と連携した助成プログラムの開発・改善事業**

事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
④-1) 立ち止まり対話するための助成金「AKBN(アケボノファンド)」による助成金拠出	通年	福岡県 愛媛県	3人	NPO 4 団体	1,273,442
④-2) 他助成機関に対するプログラム開発と改善支援	通年 4回	福岡県	2人	助成 4 機関	

④-1) AKBN ファンド第4期では、コンサルティングのセットを外す・助成額の単価を下げて採択数を増やす・福岡県内の制限を緩和するなど、プログラムの大幅な改訂を行い、成果の幅も広がった。

④-2) 助成機関（自治体の補助金部署含む）に直接プログラム改善の相談を受けることは難しいが、審査委員就任や公募説明会の開催協力を經由して、意見交換やフィードバックを渡すことができた。

**\*事務局体制**

・週1回程度の勤務、リモートワークのみの職員が新規参画したことで、職員面談や内部研修の機会を増やし、能力の並列化と同時に、それぞれの特性や生活環境にあった働き方を模索している。

・日常の感染症対策に加え、遠隔地出張時のPCR検査やワクチン接種を行った。幸いにも職員の中からコロナ陽性者や濃厚接触者が出ることはなく、業務が滞るような事態は発生しなかった。

・年間で6名のインターン生受け入れを行い、インターン生同士のチームやOB/OGとのつながりもつくることができた。また斡旋機関に対しては、NPO連名でリスク対応の要望書を提出した。

・IT専門家のプロボノ協力を得て、個人情報保護の研修を実施するとともに、新しいセキュリティソフトの購入、インストールを行なった。